

奇妙な「偶然の一致」：パズルの駒を合わせてみると、とても不思議な話になる

Michael Snyder, Infowars

December 1, 2020

あなたが共和党だろうと民主党だろうと、この2大政党とは別のどんな党だろうと、あなたは、我々の選挙がどれくらい誠実かについて、深く悩まなければならない。

なぜなら、もし我々が自由でフェアな選挙を行わなかったなら、我々の政府のシステムが、全く働かなくなるからである。

もし我々が 2020 選挙で、国の約半分の人たちが、この大統領選では不正が行われていると思うとしたら、それは大きな問題になる。

我々の選挙に対する信頼がひとたび失われたなら、その回復はほとんど不可能である。そしてそれこそ、この選挙がこれほど滅茶苦茶になったのは、なぜかを、考えてみるのが絶対に必要な理由である。

ここ数日、私は何人もの人々が、我々全員がすごく悩まなければならない、いくつかの数値を指摘しているのを見ている。この論文で、私はその最も重要な問題点のいくつかを、要約してみようと思う。

2012 年、バラク・オバマは、彼が 2008 年に得た票数よりも、350 万少なかったにもかかわらず、何とか再選に漕ぎつけた。

2020 年には、トランプ大統領が、2016 年に得た票数よりも 1,100 万も多かったにもかかわらず、大敗北したことになる。

人々は、トランプが負けたのは、バイデンへの投票者が歴史的に多かったためだ、と言っている。しかし、バイデンが現実には勝った郡の数は、「勝利候補」にしては、記録的に低く、非常に大きな開きがあった。報告されている所では、トランプが、アメリカ全体の郡の 83 パーセントを占め、バイデンは 17 パーセントにすぎない。

いったい、全国の郡の、80 パーセント以上も失ったというのに、どうして大統領選に勝てるのだろうか？

確かに、人口の多数センターが、票のセンターであるのは理解できる。しかし、オバマが彼の2回の選挙で勝ったとき、少なくとも彼は、アメリカ全体にわたって、20 パーセント以上の郡を、2回とも、勝ち取っている。

バイデンはほとんど、あらゆる所で、オバマに負けているが、例外は都市の人口センターで、そこは、バイデンの勝利のために、絶対の危機だった所である。

これらの都市の人口センターでは、バイデンは、とうてい信じられない、きわどい投票総数を、上乗せしたことになっている。

そして、たまたま起こったこととして、それらの青の濃い都市人口センターは、選挙のあった夜の、ほとんど同じ時刻に、評カウントを、いっせいにやめたと思われる。突然いっせいに、ミルウォーキー、デトロイト、ピッツバーグ、ペンシルベニア、およびアトランタで、投票行動が停止した。

多くの人々が指摘しているように、もしあなたが手をやめて、あなたの州の他のすべて領域で、投票がどうなっているかを見ようと思うなら、あなたの候補者に、あと何票かを上乗せしてみればよい。

票カウントやっと再開したとき、まさに真夜中に、4つの大きな票の塊がドスンと落とされ、それが、最もきわどい激戦州のものであることが、確実にわかった：――

1. アップデート：ミシガン州、2020年11月4日、東時間6：31 AM 現在、141,258票がバイデン、5,968票がトランプと判明。
2. アップデート：ウィスコンシン州、同日、中央時間3：24 AM 現在、143,379票がバイデン、25,163票がトランプと判明。
3. アップデート：ジョージア州、同日、東時間1：34 AM 現在、136,155票がバイデン、29,155票がトランプと判明。
4. アップデート：ミシガン州、同日、東時間3：50 AM 現在、54,497票がバイデン、4,718票がトランプと判明。

結果的には、バイデンは、ウィスコンシンで、1パーセント以下の差で勝ち、ペンシルベニアでは1パーセント強の差で勝ち、ジョージアでは1パーセント以下、アリゾナでも1パーセント以下の差で勝っている。

もしあなたが、これら4つの州の結果を逆にするならば、トランプ大統領が勝者ということになる。

カギとなる中西部各州の投票の振る舞いが、特にマユツバであった。——次の見解はPatrick Bashamのものである。

実に無数の人々が、最もきわどい、いくつかの激戦州で、投票総数がどのように操作されるかを注目していた。しかしビッグ・テク会社が、そのような情報が広がらないように、最善の策を考えていた。

実際、報告されているところでは、フェイスブックが、選挙の直後に、そのニュース報道アルゴリズムへの「緊急変更」を加えたという。

この「より細かいニュース変更」は、CNN やワシントン・ポストや NY タイムズのような、主流ニュース・メディアが、非常に有利になるようにしている。

ビッグ・テク会社たちは、我々がどう考えるかを左右する、絶対的な支配力を持っており、彼らが現在、持っている権力は絶大なものである。

彼らは、この先数年、どのような「真理」を話してもよいかを決定するだろう。そして彼らは、我々の文化を、ディストピアの道に追いやり、それは完全な忘却へとつながるものである。

この選挙は大きなターニング・ポイントであり、背後でこの出来事を支配した者たちは、そのまま無傷で逃げ去ろうとしている。

しかしこれは単に、共和党が負けたということではない。これは、すべてのアメリカ人が負けたということである。なぜなら、我々の政府のシステムの全体が、まさに目の前で崩壊しつつあるからである。

[Greatchain 訳とコメント]

これは先の「ある離党者からの公開書状」(12/24)のように、単に数値を比較してみるだけで、この選挙が、途方もないインチキであったことを証明している。

この最後のコメントが重要だと思われる。これは、どちらの党が勝ったとか負けたとかいう話でなく、アメリカという国が崩壊しかかっている現状に、国家全体がどう対処するかという問題であろう。トランプが勝っても負けても、とにかく、自国を乗っ取られようとしているアメリカ国民の、大きな目覚めが、そこから始まるのでなければならない。

これはわが国でも同じで、主流新聞や社会メディアが、どれだけ大きく我々を騙し、誤導しようとしているかに気づかねばならない。今、その飛躍のきっかけを与えられている。騙されて腹を立てるのではなく、彼らが、自分の陥った間違いに、どう対処していくのか、冷静に監察していくときである。